

99 おおみや す わ じんじゃほんでん  
大宮諏訪神社本殿



拝殿



本殿

指 定 市有形文化財 平成15年 3 月6日  
所在地 入 沢  
所有者 大宮諏訪神社



大宮諏訪神社は山城の入沢城の北方にあり、<sup>たけみ な かたのみこと</sup>建御名方命・<sup>ことしろぬしのみこと</sup>事代主命を祀る。様式からみて宝暦9年（1759）の棟札が現在の社殿の造立を示していると考えられる。

本殿は、間口2.4mの規模の二間社流造。柿葺の社殿で、拝殿を兼ねた上屋内にある。

本殿の軸部は、切石基礎・土台に円柱（下八角）を立て、足元貫・足固貫・頭貫を通し、縁長押、内法長押を打つ。頭貫には木鼻をつけるが、正面両脇に丸彫りの象鼻（胡粉・朱の彩色あり）を付け、背面側は拳鼻とする。柱間は正面は幣軸付板扉、ほかは板扉とする。縁は三方に樽縁（正面は切目縁）を回し、高欄は逆蓮の親柱とする。縁板をうける縁葛と土台の間は堅羽目板張とする。脇障子は板で、竹の節を付け、柱上の肘木から竹の節まで蕨手装飾を付ける。柱上の組物は拳鼻付きの出組・実肘木とし、造り出しの支輪を付ける。肘木は禅宗様の曲線とし、水線を付ける。中備はない。妻飾りは二重に虹梁を架け、大瓶東上の大斗に左右は、拳鼻、桁行は実肘木を置く。懸魚は<sup>かぶら</sup>蕎 懸魚 鰭付き、桁隠しは蕎懸魚とする。

向拝は、中央の柱は省略し、浜縁を設け、下長押・上長押を打ち、木階五級を置き、登高欄を付ける。柱は大面取角柱とし、水引虹梁を入れ、木鼻を付ける。組物は三斗・実肘木とし、中備に蓑股を入れる。肘木下端の曲線は、わずかに弧をつけた程度の個性的なものである。組物の内側には手挟（両端は波の彫刻、中央は絵様のみ）を付ける。母屋との間の繋ぎ（海老虹梁）はない。軒は、前面・背面とも二軒、繫垂木で、地垂木下端には反りを付ける。屋根は柿葺で、箱棟を載せ、鰭付き鬼板とし、置千木および堅魚木（3本）を置く。

全体は白木で、部分的に彩色が使われている。彩色のある部分としては、頭貫の象鼻に胡粉・朱・水引虹梁の絵様に群青・錫杖彫りに朱などが残る。また、垂木が黒く塗られている。

（吉沢政巳工学博士調査による）